『世界』せかい

私が人と成る為に、父と母がいた。
彼らが父や母と成る為に、祖父や祖母がいた。
人が世界を作る前に、そこに生きる人がいた。

私の視力はあまり良くなく、背も低いから視界は狭く。
広すぎる世界を見渡せるには足りなさすぎるし、
過去や未来まで見通せるほどの余裕もないから、
いつもは簡単に忘れてしまいがちだけれど。
私は一人じゃなかったのだと、
私が覚えていなくても、その事実だけは変わらない。

嫌な事は沢山あって、その度に泣きたくなる夜を過ごして、
だから自分は世界で一人きりだと寂しさに襲われたり。
出合いの数を重ねて、そのせいで感じる心の痛みもあって、
いつそ自分が世界で一人きりならと願ってしまったり。
弱い時ほど何も信じられなくなる私だけれど、
私が目を閉じている間にも、
前を向いて進もうとしている人はいる。

これは慰めでも、諦めでも無くても。
ただただ単純な真実で。
この目には見えずとも、
傍らで触れられずとも、
互いの声を聞けずとも、
私が今こうしているという事実が、
私が世界で一人きりじゃない証拠。

そして私が世界で一人きりじゃないという事実が、
あなたが世界で一人きりじゃない証拠なのだから。
今は見知らぬ私たちも、いつか笑顔で抱き合える、
そんな日だって来るかも知れない。